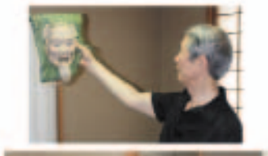
ごあいさつ

島熊山能面祭に全国から多くの能・狂言面をご応募いただきありがとうございました。
平成19年より「後世に残る優れた新作面の発掘と面打ちの皆様の支援、及び「能楽」の発展に寄与する」をめざし開催してまいりました能面祭も、今年で第6回を迎える事ができました。この間、延べ２５０人以上の面打ちの皆様から温かいご支援をいただき、また、梅若玄祥・大槻文蔵先生はじめ、多くの能楽師の先生方に多大なご協力をいただきました、感謝し厚くお礼申し上げます。
今年は第1部課題（清経）部門に52面、第2部自由部門に131面、合計183面が寄せられました。
応募された作品は能楽師が一つ一つ手にとって「能舞台で使えるか？」を基準に作者の名前を伏せ能楽師のみで厳しい審査が行われています。
能面は舞台で使われるのが本来の使命です、複数の能楽師の目で優れた作品を正当に評価する権威ある能面祭にすべく今後も努力続け、数多くの優秀作品を発掘し、能面制作のレベルアップに貢献してゆきたいと考えています。幸い、能楽師より「毎年応募される作品の技術水準が高まっている、今後に期待したい」との声が聞かれるようになり、実行委員会として大変嬉しく思うと共に全国の面打ちの皆様方の努力に敬意を表したいと思います。
今後とも皆様の手で能面祭を発展させていただきますようお願いします。

島熊山能面祭実行委員会

審査員総評

昨年より舞台で使える能面が増え、技術レベルは上がっているように思います。しかし、「能楽師が舞いたくなるような能面」レベルへの伸びが鈍く、あと一歩の壁を打ち破る努力をお願いし、ぜひ使いたいと云う面が出ることを期待します。
第1部の課題曲である「清経」に使用する面は主に「中将」ですが、大変表情が難しい面です。「中将」は修羅ものの武将に使用する面と、「融」や「須磨源氏」など高貴な公家に使用する面があり表情は違います。武将に使う面は武将の強さと戦いに敗れ苦悩する表情がなければなりません、しかも、鉢巻をしますので額の部分が隠れます。
二つの表情を混同している面が多く、残念ながら舞台で積極的に使いたくなる面はなかったようです。
能面全般に言える事ですが、単に型を写すという事でなく個々の能面（使われる曲）の表情を十分理解して打つ事が大切です。
作品としては良いのですが、作品名とは異なる表情の面もありました。また、眼の表情は良いのに口、鼻の表情が悪いなど、顔全体のバランスを欠いている作品も見られました。
作品全体の表情や造作を観て打ってください。人間の顔は左右非対象が自然ですし、個性や表情の豊かさが生まれるのです。
能面も同じです、まだ左右対称の面が多いようです。昨年も指摘しましたが、能面ですから顔に付け舞える事が最低条件です、重く、付けると前が見えない裏面工作の悪い作品も見られます。
写真を見て打っている面は全体的に色が黒くなる傾向があります。古色の付け過ぎも多いようです。非常に良い面袋がありました、保護の目的はもちろん面にあった面袋を選ぶ心使いも大切です。
皆さんで「平成の名作」を是非作っていただきたいと思っています。そのためにも、能と能面は一体のものです、是非、多くの能を見てください、そして多くの古面を見てください。

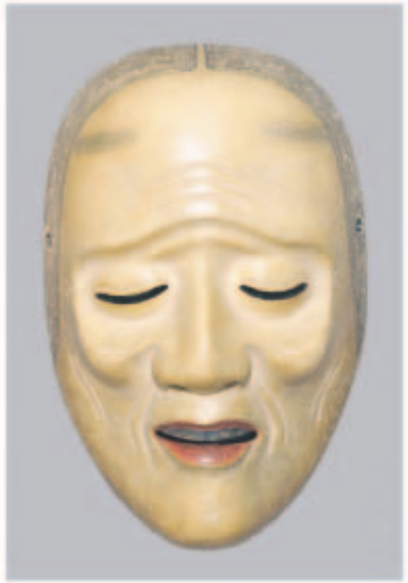


（文責・事務局）

第２部（自由部門）

大賞

梅若玄祥賞　　姥　　岩崎 拓治　兵庫県



良い作品です。能舞台で使えます。彩色も骨格も良いと思いますが、強いて言えば深みが少ないのが気になります。姥を使う曲はいづれも深い曲なので、深みがなければツレ面として使う事になるでしょう。その点を研究される事をお勧めします。

大槻文蔵賞　　皺尉　　田水　満　大阪府

良い面です舞台で使えます。しかし、この面を使う曲は重いので、能楽師はどうしても古くて良い面を使ってしまいます、残念ながら使うところまでの高いレベルには達していません。眼の印象が弱い、意思の強さはあるが弱く、神経質すぎる表情もある。もっと豊かなスケールの大きさが必要です、彩色は塗りすぎのきらいがあります。全くの写しの場合は別ですが、こんなに凝る必要はありません。